
2024 年度 事業報告書

特定非営利活動法人
アントレプレナーシッ
プ開発センター

〒604-0866
京都市中京区西方寺町 160-2
船越メディカルビル 3F
TEL:075-468-8907 FAX:075-468-8908

アントレプレナーシップ開発センターが目指すもの：

アントレプレナーシップ溢れる人材育成と社会の実現

目次

はじめに	1
2024 年度 事業概要 SUMMARY.....	2
2024 年度 活動報告 ACTIVITY REPORT.....	3
2024 年度 決算報告 FINANCIAL REPORT	17

はじめに

皆様のご支援のもと、2024 年度の事業を無事終了することができましたので、ここに報告させていただきます。

小中学生を対象とした事業「ジュニアリーダーズクラブ for Social Action」(JLC)と「Kyotoアントレプレナーチャレンジ」(KEC)では、今年も子供たちが素晴らしい成果を残してくれました。JLC では、京都の地名を紹介する「京の不思議地名かるた」を 1 年かけて制作し、販売用の商品が完成しました。秋には、「京都モダン建築祭」に参加して、寺町通のツアーを企画して一般参加者を案内しました。今年で3回目になる清掃活動「ハロウィンチャレンジ」では、100 人以上の参加者を集め、「ごみ拾い名人」に加えて「ベストドレッサー賞」を授与するなど、より参加者が楽しめるイベントへと発展させています。KEC では、「車椅子による寺社仏閣参拝のバリアフリー化」「LGBTQ の理解促進」「放置竹林の整備」など、社会的に意義のある事業に取り組むチームや、「お茶の実を使ったアクセサリー」「すぐき漬け入りの菓子」といった地元特産物の認知度を高めるために新しい商品開発に挑戦したチームもありました。例年のことですが、いずれのチームも、プロジェクトを進めていく中で、思い通り行かず苦労する場面がありましたが、それを乗り越えることで、大きな学びを得ていました。特に、リーダー役の子供の成長は大きく、この事業を通じてアントレプレナーシップを習得している様子が伺えました。

2004 年から続けています高校生の国際競技は、昨年 5 月の世界大会 Global Youth Entrepreneurship Challenge (GYEC)には、32 カ国から 453 チーム(合計約 2600 人)が参加し、1 次選考を経て 57 チームが決勝に進みました。優勝はドイツのチームでしたが、日本のかえつ有明高校のチームも特別賞を受賞しました。今年の 3 月 23 日に開催された国内予選 Global Enterprise Challenge (GEC)には、52 校から 70 チームの高校生がエントリーし、3 チームが 5 月の世界大会への出場権を得て、他の 25 カ国の代表チームとともに競技に参加しました。

第 24 回目を迎えた起業教育の実践見本市「ユースエンタプライズ トレードフェア」は、協賛企業から提供いただいた2つの新しい賞も加わり、生徒達の日頃の成果が様々な視点で評価される良い機会となりました。

大きく変容する世界情勢のなか、アントレプレナーシップの必要性がますます高まり、起業に興味を持つ若者や教育事業を実施したいという大人も増えてきました。そんなニーズに応えるべく、当センターでは指導者養成にも力を入れており、日本各地で実践する教育者が育ってきております。

皆様には、そんな彼らの応援団として、引き続き当センターの活動をご支援賜りますようお願いいたします。

令和 7 年 5 月末日

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
理事長 原田紀久子

2024 年度 事業概要

Summary

事業内容	対象等
1.能力開発のための研修・講義・講座の提供	
【ジュニアリーダーズクラブ for Social Action】 身近な社会問題について考え、自分達が出来ることを提案して主体的に実践するなかでソーシャルリーダーとしての資質を育成する講座。今年も昨年に引き続き、活動を評価され、ボランティアスピリットアワードで関西地域のブロック賞を頂きました。 助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」 一般社団法人インダ三方良しの会 公益信託「京都ライオンズクラブ地域社会奉仕活動助成基金」	対象：小学 5 年～中学生 日時：毎月第 1, 3 土曜日 午前 9:30-11:30 場所：寺町商店街(京都ペレット町家ヒノコ2F、レンタルスペース PQN?他) 参加者：子供延べ約 300 人、大人約 100 人
【Kyoto アントレプレナーチャレンジ】 小・中学生対象の事業アイデアコンテスト。採択事業には、その実現に向けて助言や経費的な支援をし、最後に優秀な取り組みを表彰するもの。今年は、6 つの事業提案を採択し、7 月末～3 月初旬の間に、5 つのチームが提案事業を実現しました。 補助：京都府「起業するなら京都・プロジェクト」起業体験推進補助事業	対象：京都府内の全小・中学生 参加者：応募 29 チーム 73 人/採択 6 事業への参加者約 400 人
2.普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営	
【 Global Enterprise Challenge (GEC) / Global Youth Entrepreneurship Challenge (GYEC)】 高校生対象の 12 時間のオンラインでのビジネスアイデアの国際競技。国内予選又は世界大会の 1 次予選を勝ち抜いたチームが決勝に進出できる。 協賛：有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、株式会社GSユアサ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社、日東薬品工業ホールディングス株式会社、日本ニューロン株式会社、株式会社フューチャースピリッツ、株式会社堀場製作所、村田機械株式会社 協力：京都技術士会	対象：高校生 日時：世界大会 5/25, 国内予選 3/23 参加者：世界大会：32 カ国から 453 チーム(約 2600 人),国内予選：52 校 70 チーム(450 人)
【ユースエンタプライズ トレードフェア】 地域と連携した起業教育の実践活動を行う小学生～大学生が一堂に会して出展・交流する成果発表会。優秀な取り組みを表彰。今年も京都大学での開催。 協賛：一般社団法人インダ三方良しの会、株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社 SCREEN ホールディングス、株式会社井筒ハツ橋本舗、有限会社 Ek(エク)、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗、宮井株式会社、よーじやグループ	対象：小学生～大学生 日時：12/1(日) 場所：京都大学百周年時計台記念館 参加者：約 300 名
3.実践を後押しするための教材・教育プログラムの提供や指導者育成	
【Youth Enterprise】 小学生～大学生の起業家教育の活動を発信・交流できるオンラインの教育プログラムの提供。	対象：小学生～大学生 参加者：31 プロジェクト 約 1000 人
【アントレプレナーシップ教育の指導者研修】 アントレプレナーシップを推進したい教育指導者の育成講座。	対象：大人 参加者：約 100 人 オンライン＆対面
4.事業理解を進めるための調査・研究・情報発信	
HP や月一回のメールマガジン、SNS 等によるセンター活動の報告・案内を行った。	随時、メールマガジンは毎月 25 日発行
5.その他 この法人の目的を達成するために必要な事業	
委員や講演等。行政や地元の経済団体・大学等の人達に当センターの活動を知ってもらう機会となっている。	随時

2024 年度 活動報告

Activity Report

1. 能力開発のための研修・講義・講座の提供

➤ ジュニアリーダーズクラブ for Social Action

参加者:小学生 5 年～中学生

活動日:第 1・第 3 土曜日 9:30-11:30 活動場所:寺町商店街の貸会場

主催:特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協賛:一般社団法人インダ三方良しの会、株式会社タカノ

助成:独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」
公益信託「京都ライオンズクラブ地域社会奉仕活動助成基金」

後援:京都市教育委員会

本事業では、子供達が身近な社会問題について考え、その解決に貢献できる事業を提案し、実際に取り組むことで、リーダーとしての資質を伸ばすことを目的としています。

2024 年度は、読むのが難しい京都の地名を楽しく学んでもらいたいという提案から、「京の不思議地名かるた」の作成に取り組みました。絵札の絵や裏面の地名紹介の地図などを子供たちが ibisPaint を使って作成。読札の句もみんなと一緒に考え、地名の由来を裏面に書きました。いろんなところで試作品を使って遊んでもらい、助言を得て改善を重ね、今年の 6 月には販売予定です。



10 月 27 日には、今年で3回目になる「ハロウィンチャレンジ～ゴミ拾い名人は誰だ!？」を開催し、100 人を超える方と一緒に清掃活動を行い、147 キロのゴミを集めました。JLC のメンバーが友達に声をかけて集客したことから、親子で参加する人が多く、参加者の 7 割が



15 歳以下の子供たちでした。今年は、「ゴミ拾い名人賞」に加えて「ベストドレッサー賞」を作ったことで、とても盛り上がりました。活動終了後のアンケートでは、回答者全員が「ゴミを捨てないでおこうと思った」と回答し、6 割以上の方が「ゴミ問題を考えるきっかけになった」と答えていました。



秋には、「京都モダン建築祭」の主催者からお誘い頂き、京都市役所や寺町通の建築について勉強を重ね、11 月 2 日にツアーを実施しました。雨の中でしたが、20 人近くの方に参加頂き、喜んで頂くことができました。



12 月 1 日のトレードフェアでは、これらの活動を発表し、特別賞を受賞しました。また、これら JLC の活動が認められ、第 28 回ボランティ



アスピリットアワードの関西地域のブロック賞を受賞しました。JCL の代表が、東京で開催された全国大会の表彰式に出席し、全国から集まった中高校生 30 人と一緒に交流し、大きな刺激と受けるとともに、貴重な学びの機会を得ることができました。



➤ Kyoto アントレプレナーチャレンジ（小中学生対象）

対 象 者：京都府内の小・中学生

公募期間：2024/4/20～6/24

審 査：1 次書類審査結果発表：7/22 2 次審査：7/21 結果発表 7/23

活動期間：8/4 採択者向け合同研修～3 月中旬（事業発表会 2025/3/16）

＊この間、採択者へのメンタリングを実施＆採択者は HP で活動発信

・月 2 回のオンラインミーティングを合計13 回実施

・チームリーダーや指導者・支援者と主としてメールでやりとりし、必要に応じて個別支援

・各プロジェクトに必要なに応じて、助言者や支援企業の紹介、交渉の際に同行・同席

・各プロジェクトのイベント開催・販売・広報支援

主 催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

後 援：京都府、京都府教育委員会、京都市教育委員会

補 助：令和 6 年度京都府「起業するなら京都・プロジェクト」起業体験推進補助事業

協 賛：有限責任あずさ監査法人京都事務所、株式会社イシダ、三洋化成社会貢献財団、株式会社 SCREEN ホールディングス、日本新薬株式会社、株式会社たけびし、株式会社ブリッジコーポレーション



本事業は、京都府内の小・中学生を対象に、「京都の強みを活かしてこんなことしたい！」「自分達の身近な問題をこんなふうに解決したい！」という事業アイデアを募り、その実現を応援することで、より良い京都を創っていく担い手に必要なアントレプレナーシップを培ってもらうことを目的としたものです。

2024 年度は、29(73 名)の応募があり、1 次の書類選考にて選ばれた 10 の事業が 2 次の面接に進み、最終的に 6 つのアイデアが採択されました。採択された事業を提案した子ども達は、8 月の一斉研修に参加した後、3 月の事業報告会まで、月 2 回オンライン

会議にて、事業の実施に必要な助言を受けながら、互いの取り組みから学び合う機会を持ちました。最終的に、5 つのプロジェクトが事業を完了し、3 月 16 日に、京都経済センターにて成果発表を行い、以下の 2 チームに賞が授与されました。

- 知事賞：『国宝 可動式バリアフリー計画』（八幡市立男山第三中学校 1 年生）
- アントレプレナー大賞：『すぐきの魅力を伝えたいっ！』（京都先端科学大学附属中学校2年生）

採択された事業の参加者アンケートからは、子供たちが本活動で、「働くことを通じて社会に貢献できること」を学び、「新しいことにチャレンジする気持ち」「アイデアを形にする力」「他の人と一緒に協力して働く力」「伝えたいことをまとめて発表したり、他人に説明したりする力」など、アントレプレナーシップに必要な様々な力を習得した様子が伺えました。特に、やりたいアイデアがあって、本事業に応募してリーダー役を担った子供の学びや満足度は高く、リーダーとしての経験の重要性が数字として表れています。

同時に、このような子供主体の事業では、周りの大人がどこまで関与してよいかについての戸惑いがつきもので、今年は、親が子供に勧めて応募したのはよいけれど、子供の活動ではなく保護者が実施するプロジェクトになってしまい、マスメディアに取り上げられたことがきっかけになって、自由に使える補助のお金ももらえないなら、自分たちだけでやるほうがよいと、関係者と一緒に活動しているメンバーの了解も得ず、勝手に保護者が事業を途中から離脱すると言い出され、最終的に子供がその責任を負う形になってしまうという残念な結果となりました。保護者の理解や意識が子供たちの学びに大きく関わる事案となりました。



また、応募が京都市内や京都府南部にかたよっており、北部の子供たちの応募を増やす工夫も必要だと考えています。教員の働き方改革もあり、京都市をはじめ、学校での広報物の配布が禁止されているなか、いかに小中学生に本事業について知ってもらうかというのは我々主催者にとってのチャレンジになっています。同時に、この事業を通じて、大きく成長している子供たちがいる一方で、今後、府の補助金がさらに減額され、運営予算が厳しくなるなか、より多くの子供たちに、アントレプレナーシップを発揮する機会を提供できる方法がないか模索しています。

<採択事業紹介>

『国宝 可動式バリアフリー計画』(八幡市立男山第三中学校 1年2人) 知事賞受賞>

車椅子に乗っている人も、気軽に寺社仏閣を参拝できるようにしたいと、可動式のスロープを最寄の神社にレンタルする事業提案で応募。積極的なプレゼンの姿勢が評価されて採択となりました。しかし、各神社では、スロープを持っても、行事の際に邪魔になったり、設置する職員が不足していたりなどの理由で

常設していないことがわかりました。神社が希望するような設備は、中学生の力では集めることもできず、一旦、提案アイデアを断念。その後は、人が支援することで段差を乗り越える方法を検討し、車椅子を人が安全に運ぶための取扱説明書の作成や適切な持ち上げ場所に貼るシールを作成して、普及のための Web サイトを開設。車椅子に乗っている当事者も含め、多様な人にヒアリングして、今後より良いものにするべく、今後も活動続ける予定です。



『すぐきの魅力を伝えたい！』(京都先端科学大学附属中学校2年2人) アントレプレナー大賞受賞

京都の三大漬物の一つ「すぐき」のことを、もっと多くの人に知ってもらいたいと、上賀茂のすぐき農家やパティシエの方に協力を得て、すぐきの入ったクッキーができないか思考錯誤。何度も試作を繰り返しながら、やっと商品が完成。菓子販売をされている福祉事業所の

喫茶の支援のもと、調理場を貸していただき、自分達で焼いて完成させたすぐき入りの焼菓子を3月15日に、阪急嵐山の嵐電の駅で販売しました。生憎の雨で完売とはいきませんでしたが、翌日の16日の発表会で残りを販売し、収益をお世話になった福祉事業所に寄付しました。



『人間と動物にとってよい環境を作ろう』(京都市立醍醐小学校4年他8人・NPO法人まなあそび)

醍醐地域の子供たちが、地域の山の手入れをして遊び場をつくったり、鹿が田畑に降りてきて荒らしたりすることがないようにしたいと、野生動物の現状や放置竹林の問題について学びながら、地域の竹林整備に挑戦。まずは、自分達でノコギリを使って切った竹を利用して遊び道具を作ったり、飾りを作って販売したりして楽しみながら、竹林整備を体験。その後、自分達の学校の友達にも呼びかけて参加者を募り、



2月9日に20名ほどで、自分達で基地を作って遊び場にもなっている竹林の放置竹を片づける作業を行いました。課外活動を行っているNPOが窓口で応募したことから、メンバーがそれぞれ異なる学校で、自由に集まることが難しく、本腰を入れて活動を始めるまで少し時間がかかったが、最後の体験イベントを成功させて、大きな自信になったようです。

『助け合い増し増しプロジェクト ハートフル葵』（京都市立葵小学校 5年5人）

LGBTQの問題に関心を持った小学生5人が、「男らしく」「女らしく」の押し付けに感じる違和感について調査し、ジェンダー平等についての理解を深めるための劇を自分達で企画し、学校で上演。当日は、参加者が意見交換して学び合う機会もつくりました。



子供たちの日常にありがちな親からの言葉を、どう受け止めるかなどを考える劇で、もっと多くの人に見てもらいたいと、動画を作成し、YouTubeでもみれるようにしました。必要になった経費は、寄付金で集め、5人の同級生が協力しながら、同じクラスのメンバーにも声をかけて劇に出演してもらうなど、自分達の取り組みに人を巻き込んで実現していく力を感じたチームでした。



『茶ステナブルなグッズ!』（宇治市立宇治小学校 5/6年 2人 / おうばく塾）



お茶について学んだことをきっかけに、宇治の特産品であるお茶についてもっと多くの人に知ってもらいたいと、お茶の実やお茶の葉を使った小物づくりの工作体験のワークショップを企画。子供の居場所を提供している団体からの応募で、最初は7名くらいで取り組む予定だったのが、時間を合わせるのが難しかったらしく、リーダーの小学生姉妹2名で、ワークショップの開催場所を探したり、小物づくりの準備をしたり、支援スタッフの方の協力も得ながら、最後までやり遂げていた。

結果、近くの公園でのマルシェ、ギフトショップや子供食堂で4回のワークショップを開催し、手作りの小物を販売するなどして材料費をまかない、活動を成功させていた。



2.普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営

▶ 世界大会 Global Youth Entrepreneurship Challenge 2024

対 象 者:世界各国の高校生

活 動 日:2024 年 5 月 25 日 8:00-20:00

主 催:特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協 賛:有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所
株式会社 GS ユアサ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社
日東薬品工業ホールディングス株式会社、日本ニューロン株式会社
株式会社フューチャースピリッツ、株式会社堀場製作所

協 力:京都技術士会

本競技は、若者の科学技術やイノベーションへの興味を喚起するために、15～18 歳の高校生を対象に実施する 12 時間のオンラインによる国際競技です。2024 年の世界大会の 1 次予選には、32 か国から 453 チーム約 2600 名が参加し、1 次選考を経て 57 チーム 340 名が最終戦に進みました。結果、ドイツの Frankfurt International School チームが優勝しました。

<課題(Challenge)>

争いを回避するために、話し合いで民主的に解決するスキルを習得する教育事業の提案

■参加チーム:32 カ国から 453 チーム参加し、1 次選考を経て 57 チームが最終戦に進みました

■入賞チーム:以下 3 チーム

●1 位(最優秀賞) Zeta チーム (Frankfurt International School、ドイツ)

●2 位(優秀賞) Waffles チーム(Raffles Institution、シンガポール)

●特別賞 Ones & Twos チーム (かえつ有明高等学校、日本)



Zeta チーム (ドイツ)



Waffles チーム(シンガポール)



Ones & Twos チーム(日本)

<1 位入賞チームの提出物>



➤ 国内予選 Global Enterprise Challenge 2025

対 象 者: 日本国内の高校生

活 動 日: 2025 年 3 月 23 日 8:00-20:00

主 催: 特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協 賛: 有有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、株式会社GSユアサ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社、日東薬品工業ホールディングス株式会社、株式会社フューチャースピリッツ、株式会社堀場製作所、村田機械株式会社

協 力: 京都技術士会

後 援: 経済産業省近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合、公益財団法人全国商業高等学校協会、青少年と科学の会、国立研究開発法人科学技術振興機構、独立行政法人国立高等専門学校機構

今年は、全国 52 校から 70 チームがエントリーし 447 人の高校生が参加しました。そして、3 月 9 日の事前学習会での模擬練習を経て、3 月 23 日の国内予選にてトップ 3 位のチームが選ばれ、5 月 17 日の世界大会に出場予定です。

<課題(challenge)>

大阪万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマに則り、若者がより良い社会を思い描き、その実現に向けて科学技術の可能性を探求するきっかけとなる展示の提案。

■参加チーム: 70 チーム (447 人)

■入賞チーム(日本代表チーム)

- 1 位 - HGHarmonies チーム (広尾学園高等学校 2 年生)
- 2 位 - MAE2 チーム (さいたま市立大宮国際中等教育学校 2 年生)
- 3 位 - Tebukuronyanko チーム (加藤学園暁秀高等学校 2 年生)



HGHarmonies チーム
(広尾学園高等学校)



MAE2 チーム
(さいたま市立大宮国際中等教育学校)



Tebukuronyanko チーム
(加藤学園暁秀高等学校)

<まとめ>

2024 年の世界大会の応募者は過去最高となり、パートナー国以外では、5 割以上の生徒が SNS で本競技について知り仲間を集めて参加しておりました。また、参加者の 7 割近くが起業に興味を持っていることを参加理由としてあげており、日本の国内予選でも 5 割近くになり、世界の若者と比較するとまだまだ低いものの、例年 3 割程度だった数値が上昇していることから、日本の若者の起業への関心が高まっていることが伺えました。決勝のアンケートでは、競技で学んだこととして、89%が「他者と協力して働く力」、66%が「既存の社会的課題の解決に企業概念をもって挑戦すること」、58%が「科学技術を利用した新しい製品・サービスの創造」を選んでおり、「起業にさらに興味を持ち将来ぜひ挑戦したいと思った」生徒が 44%、「機会があれば挑戦したい」という生徒が 30%でした。最終的に、ほぼ全員の生徒が学びのある経験だった(Great62%、Good34%、Fair4%)と答えており、主催者としても概ね意図していた目的が果たせたのではないかと考えております。

➤ 第 24 回 ユースエンタプライズ トレードフェア

対 象 者: 起業教育を実践している小学生～大学生 27 チーム

(小学生 1 チーム、小・中学生 3 チーム、高校生 2 チーム、大学生 21 チーム)

活 動 日: 2024 年 12 月 1 日 10:00-16:30

場 所: 京都大学百周年時計台記念館2F 国際交流ホール

主 催: ユースエンタプライズ トレードフェア実行委員会

(事務局: 特定非営利動法人アントレプレナーシップ開発センター)

協 賛: 一般社団法人イシダ三方良しの会、株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、
京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社 SCREEN ホールディングス

広告協賛: 株式会社井筒ハツ橋本舗、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗

賞品協賛: 株式会社井筒ハツ橋本舗、有限会社 Ek(エク)、オムロンヘルスケア株式会社、
株式会社つなぐ制作所、宮井株式会社、よーじやグループ

後 援: 経済産業省、厚生労働省、文部科学省、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育
委員会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都中
小企業家同友会、一般社団法人京都発明協会、青少年と科学の会、京都府私立中学高等
学校連合会、日本キャリア教育学会

24 回目を迎えた『ユースエンタプライズ トレードフェア』は、オンライン出展も含めて 27 チームが参加し、日頃の学習成果を展示販売やプレゼンテーションを通じて発表しました。出展中は、審査員からの助言に加え、一般の来場者の意見を聞いたり、互いの実践から学び合ったりする良い機会となっています。展示終了後に出展者の交流目的で実施しているミニチャレンジは、今年は“かんなくず”を使った物作りとなりました。

トレードフェア終了後の参加者アンケートでは、97%の生徒が学ぶことがあった(「大変学ぶことがあり役立つ活動だった」(63.8%)「学ぶことがあり役立つ活動だった」(33.1%))と回答しており、役立った活動としては、「トレードフェアに出展するための様々な準備」(86.6%)「新しい事業を考え形にして発表するまでのプロセスが体験できたこと」(70.1%)「お客さんや審査員から意見が聞けたこと」(70.1%)「他の学校の取り組みを直接見れたこと」(59.8%)などが高い順位で選ばれていました。また、このような活動を通して、約 80%の参加者が「他の人と一緒に協力して働く力」が伸びた、「アイデアを形にする力」がついたと回答し、次いで、「新しい事業をつくりだす(会社を立ち上げて商品をお客さんに届ける)過程についての理解」(約 72%)「伝えたいことをまとめて発表したり他人に説明したりする力」(約 66%)が伸びたと回答しています。起業についての興味関心についての質問に対しても、殆どの参加者が以前より起業家を尊敬するようになっており、「自分で会社を始めることに興味を持ち、ぜひ自分もいつかチャレンジしてみたい」(33.9%)「将来機会があれば自分でやっても良い」(27.6%)と参加者の半分以上が起業への積極的な姿勢を養うきっかけになっています。ミニチャレンジについても、他校の人とアイデアを出し合って交流できたことが良かったようです。以上のことから、本事業が意図している目的が概ね達成できたのではないかと考えております。

一方で、出展者は、プレゼンと出展の両方で、他校の取り組みをじっくり見る時間がなかったり、今年初めて実施したオンライン出展は、ネット接続がうまく行かなかったり、審査員の負荷も高く、リアルな出展者と同様のコミュニケーションをとるのが難しいこともわかりました。審査の評価項目が、事業のビジネス性を問うものに偏りがちな点もあり、社会事業の提案が増えているなか審査体制と合わせて今後見直しをしていきたいと考えています。

1 日のイベントで、当日審査をして表彰チームを決めるには、出展者チームの数に限界もありますが、来年の 25 周年に向けて、今後より多くの方々为本事業に参画いただけるよう尽力して参りたいと考えています。



<入賞チームの紹介>

●京都府知事賞（社会貢献度が最も高かったチームへ）

賞品：使用済み竹割りばしで作ったスマートフォンスタンド 4 セット 賞品提供：京都府

○受賞者：こみゅれび（名古屋市立大学）

-名古屋を緑と繋がりあふれる街にすることを目指し、企業と連携し、子供食堂に『アクアポニックス』を設置。都市緑化を実現するとともに新たな地域のコミュニティを形成することを目的にした、高い環境意識と地域貢献度が評価されました。



●京都中小企業家同友会賞（ビジネスモデルに新規性や独自性の高かったチームへ）

賞品：木工パズル 賞品提供：一般社団法人京都中小企業家同友会

○受賞者：めじせーぶ（目白大学）

-交通事故に遭いやすい小学生をターゲットにし、ゲームや動画を通して交通事故の危険性について再確認してもらうことを目的として開発。近年の子供の交通事故増加から、ゲームを実際に子供たちにプレイしてもらうことで、交通安全を楽しく学ぶだけでなく、実践することで交通事故の防止につながる点が評価されました。



●青少年と科学の会賞（ものづくりにおいて新しい発想があったチームへ）

賞品：西陣織（絹）の名刺入れ 7 セット 賞品提供：青少年と科学の会

○受賞者：燈（とぼし）（共愛学園前橋国際大学）

-昨年度から継続しているサウナ・スパ関連の商品をより一層発展させ、乳がん経験者の方にも快く温泉に入っていただく『湯あみ着』を開発。機能性やデザインを重視したおしゃれな湯あみ着で今まで温泉を敬遠していた方が、温泉を利用したくなる環境をつくる活動が評価されました



●ジュエリープティ賞(キラッと光るセンスや美的感覚・ストーリー性があったチームへ)

賞品:アマゾン商品券 5 万円 賞品提供:株式会社つなぐ制作所『小さな工房 JewelryPetit』

○受賞者:がんとぶ。(共愛学園前橋国際大学)

-群馬県の伝統工芸品である伊勢崎緋(いせさがすり)を若い世代に広め、後世に繋いでいくことを目的に伊勢崎緋の柄を生かしたぬいぐるみキーホルダーを開発。キーホルダーを販売するガチャガチャや、横に POP やポスターを貼り、目に留まる工夫をしたセンスや美的感覚、ストーリー性が評価されました。



●エクノobel賞(ユニークな方法で日本文化を発信していたチームへ)

賞品:図書券 3 万円 賞品提供:有限会社 Ek(エク)

○受賞者:3algae (名古屋市立名古屋商業高等学校)

-インドネシアで作られた環境にやさしいプラスチック BIOPACK を使用し、日本の食品会社と共同で商品を製作し、カップ麺に入っているプラスチックの調味料袋の代替品を提案。食べられ、水に溶け、土に換えるという環境に良い BIOPACK を日本のカップ麺に使用する着眼点に共感し、評価されました。



●特別賞(上記賞に該当しなかったが優れた取組を行ったチームへ)

賞品:風呂敷と「ふろしきで贈り物」の本 10 セット 賞品提供:宮井株式会社

○受賞者:LenCon (名古屋市立大学)

-地元中小企業の新規事業開拓や新商品開発の際の資源不足による行き詰まりを解消するために、プラットフォーマーとして新規事業や新商品開発のサポートをする事業。実際に企業との商品開発を行った実績とその社会貢献度が評価されました。



●特別賞(上記賞に該当しなかったが優れた取組を行ったチームへ)

賞品:電動歯ブラシ 10 本 賞品提供:オムロンヘルスケア株式会社

○受賞者:ジュニアリーダーズクラブ for Social Action

-読むのが難しい京都の地名を楽しく学んでもらえるカルタを開発。取り札の裏には簡単な地図が書かれていて、読み札にはその地名の由来などをいれ、小学生から大人まで楽しめるように工夫されており、その発想力が評価されました。



●スチューデント賞(発表者が選ぶ一番よかったチーム)

賞品:よーじやオリジナルギフト 10 セット 賞品提供:よーじやグループ

○受賞者:をかし(共愛学園前橋国際大学)

-昨年度より引き続き、夜遅くまで勉強に励む学生を支援することを目的に、大豆や蜂蜜を用い、少量で満腹感が得られ、記憶力や集中力が高まるだけでなく、片手で手軽に食べられる商品を開発。生地に絹豆腐を使用するなどの工夫や、手頃な価格で多くの出展者の票を得ることができました



●ベストショップ賞(一般来場者が選ぶ一番よかったチーム)

賞品:おめでとう三笠 50 個 賞品提供:株式会社井筒ハツ橋本舗

○受賞者:NISSI カンパニー(亀岡市立西別院小学校)

-地域の人達の協力を得て栽培・収穫した野菜やお米、そして、機織り教室で子供たちが織った布を商品化したものを販売。新鮮な野菜が好評で、一般来場者の票を得ました。



3. 実践を後押しするための教材・教育プログラムの提供や指導者育成

➤ Youth Enterprise <http://www.youthenterprise.jp/>

小学生～大学生達が、学年段階を超えて、自分達の起業教育の活動を発信しながら、互いに学びあい、また、彼らの支援者が応援者としてプロジェクトの進捗状況を閲覧し応援できるようになっています。

トレードフェアや Kyoto アントレプレナーチャレンジでは、このサイトでの活動発信が表彰のための事前審査の対象となっており、2024年度は34のプロジェクトが登録し、取り組み内容を発信しました。



➤ アントレプレナーシップ教育指導者養成講座

<インストラクター養成講座>

アントレプレナーシップを推進する教育指導者の育成の研修講座を3回開催しました。基礎編はオンラインで、実践編は京都にて実際の活動に参加しての研修となります。受講者の多様なバックグラウンドから、各地でアントレプレナーシップ教育を実践されたい方が増えて来ていることを実感しています。



<委託での指導者研修>

- 2024-06-12: 鈴鹿青年会議所 6 月例会にてアントレプレナーシップ教育についての講演とワークショップの実施
- 2024-08-22: 白川郷学園学校運営協議会にてアントレプレナーシップ教育の指導者研修会
- 2024-08-27: 小中高校教員対象「アントレプレナーシップ教育人材育成プログラム」にて指導者育成研修(主催: 京都府立大学・一般社団法人京都知恵産業創造の森)
- 2024-12-17: 和歌山大学アントレプレナーシップデザインセンター 教職員研修
- 2025-02-2: 舞鶴高等専門学校: 教職員向け「アントレプレナーシップ人材育成研修」



4. 事業理解を進めるための調査・研究・情報発信

➤ HP、ブログ、Facebook やメールマガジンでの情報発信

HP では、随時活動情報や実践の報告を発信するとともに、毎月 25 日には約 6,000 人にメールマガジンを配信しています。

<メディア掲載等>

- ・ 2025.3.17:京都新聞「より良い社会 子らがー石 アントレプレナー起業アイデア発表会」
- ・ 2025.3.17:毎日新聞「すぐきの魅力伝えたい！形に-小中生「アントレプレナー」発表 大賞に藤井さん、倉田さん(中2) /京都」
- ・ 2025.3.17:読売新聞「地域課題解決へ-小中生アイデア 下京で発表会」
- ・ 2025.3.16:KBS 京都 京都 Days「京都府内の小中学生がわくわくの未来を発表 アントレプレナー・チャレンジ」
- ・ 2025.2.22:京都新聞「すぐきっこ味な活動-京の三大漬物もっと食べて！」
- ・ 2025.2.21:京都新聞「京都環境賞」の大賞に京都市立中学の 2 年生 ミミズ使ったコンポストの普及活動」(ジュニアリーダーズクラブのメンバーで、2023 年度の第 4 回 Kyoto アントレプレナーチャレンジにてアントレプレナー大賞の受賞者です)
- ・ 2025.1.19:洛タイ新報「お茶の実で飾り物を作ろう-25 日に宇治で-」
- ・ 2025.1.14:京都新聞「駄菓子屋中学生が復活 地元店へ移転、「集える場所を」
- ・ 2024.12.21:京都新聞 Web「京都市山科区に超人気「駄菓子屋」誕生 老舗が 3 年前閉店で奮闘」
- ・ 2024.12.8:京都新聞「京都市左京区で性のモヤモヤ、劇で表現 児童が「男らしく、女らしくって何？」
- ・ 2024.12.2:京都新聞「京都市左京区の京都大で若者が社会課題解決の事業アピール 亀岡市の「会社」商品は売り切れの人気」



毎日新聞 Web



KBS 京都のニュースで

活動を支えてくださった方々

Supporter

<助成・協賛団体>

 National Institute For Youth Education 国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金助成活動」	
	 京都外国語大学 Kyoto University of Foreign Studies
 SHIMADZU Excellence in Science	
 日新電機グループ 社会貢献基金	
 日東薬品工業HDグループ	 NEURON
 FUTURE SPIRITS	 HORIBA Explore the future
	 ISHIDA
 一般財団法人 三洋化成社会貢献財団 SANYO CHEMICAL Foundation for Social Contribution	
 新しい生きるを、創る。 日本新薬	 株式会社 たいしゅし
 BRIDGE 株式会社ブリッジコーポレーション	 SUS
	 コミュニティ・バンク京信

<その他の協賛・協力団体>

株式会社井筒ハツ橋本舗、有限会社 Ek(エク)、オムロンヘルスケア株式会社、京都技術士会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都中小企業家同友会、青少年と科学の会、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗、株式会社 Hibana、宮井株式会社、有限会社森三、よーじやグループ

<会員・賛助会員>

青木 孝文、青山 和典、石塚 実、大口 達夫、奥上正一、黒澤 敏朗、酒井 朋久、澤田 有紀、重松 利信、首藤 晴美、鈴木 三朗、高谷 尚志、竹浪 順一、谷孝 大、角田 隆太郎、中澤 弘、松田 直子、横山 強、山本 桂子、矢内 篤、里中 康輔、後藤 英之、下村 委津子、田中 絵里加、谷川 玲子、中根 敏雄、西田 喜久夫、野田 幸平、松田 稔樹、道越 久悟、森 義晴、山崎 真嗣

2024 年度 決算報告

Financial Report

令和 6(2024)年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

自 令和 6 年 4 月 1 日 至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位:円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費		242,000	
2. 受取寄附・協賛金		2,969,500	
3. 受取助成・補助金		2,925,104	
4. 事業収益			
教育教材開発・導入支援事業収益	1,037,300		
普及促進事業収益	2,462,670		
研修・講座事業収益	2,185,210		
その他(委員等)	85,630	5,770,810	
5. その他収益			
受取利益	4,950	4,950	
経常収益計			11,912,364
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費	7,590,734		
(2) その他経費	2,892,185		
事業費計		10,482,919	
2. 管理費			
(1) 人件費	369,610		
(2) その他経費	1,140,387		
管理費計		1,509,997	
経常費用計			11,992,916
当期経常増減額			-80,552
III 経常外収益			
		0	
IV 経常外費用			
		0	
経常外費用計			
税引前当期正味財産増減額			-80,552
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			-150,552
前期繰越正味財産額			15,414,221
次期繰越正味財産額			15,263,669

令和 6(2024)年度「特定非営利活動に係る事業」貸借対照表

令和 7 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	141,067		
普通預金	26,446,693		
前払費用	111,480		
流動資産合計		26,699,240	
2 固定資産			
保証金(敷金)	500,000		
固定資産合計		500,000	
資産合計			27,199,240
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	3,665,496		
前受受益	1,265,660		
預り金	4,415		
流動負債合計		4,935,571	
2 固定負債			
退職給与引当金	7,000,000		
固定負債合計		7,000,000	
負債合計			11,935,571
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		15,414,221	
当期正味財産増加額			
当期収支差額	-150,552	-150,552	
正味財産合計			15,263,669
負債及び正味財産合計			27,199,240

令和 6(2024)年度「特定非営利活動に係る事業」財産目録

令和 7 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目 ・ 摘 要		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	141,067	
普通預金	京都銀行西五条企業会館支店	4,296,568	
	京都中央信用金庫西大路五条支店	4,977,498	
	ゆうちょ銀行(当座預金)	17,172,627	
前払費用		111,480	
	流動資産合計		26,699,240
2 固定資産			
保証金(船越メディカルビル事務所保証金)		500,000	
	京都市中京区両替町通丸太町南入西方寺町160-2		
	船越メディカルビル 3F		
	固定資産合計		500,000
	資産合計		27,199,240
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金		3,665,496	
前受受益		1,265,660	
預り金		4,415	
	流動負債合計		4,935,571
2 固定負債			
退職給与引当金		7,000,000	
	固定負債合計		7,000,000
	負債合計		11,935,571
	正味財産合計		15,263,669